

令和6年度
運営に関する計画



令和6年4月
大阪市立南大江小学校

大阪市立南大江小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○昨年度も「いじめアンケート」を実施し、児童の実態把握といじめの早期発見の取り組みを行った。アンケートの結果から明らかとなつたいじめ事案については、被害児童・加害児童の双方から個別に丁寧に聞き取りを行い、事実関係を明らかにしたうえで、当事者同士で話し合いをしたり、家庭と連携したりするなどし、いじめ事案の全てについて解決につなげた。いじめ事案については、学年打ち合わせや生活指導交流会で全体共有を行い、対応方法や指導方法を確認している。いじめの早期発見に向けては、普段から児童の様子を観察し、いじめにつながる言動があればその都度指導し、いじめを未然に防ぐように努めている。児童の他者との関係性を注視しながら「いじめアンケート」「相談申告機能」「心の天気」等も活用し、児童の実態把握といじめの早期発見に努めている。「いじめはどの学校、どの学級でも起こり得る。」という危機意識を教職員一人一人が常に念頭に置きいじめの早期発見に努めるとともに、カウンセリング・マインドを持って児童への対応ができるよう研修を重ねるなど、取り組みを続けていく必要がある。

○令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響や保護者との分離が難しいケースなど不登校につながる様々な要因を考慮し、関係機関（スクールカウンセラーや区子育て支援室、こども相談センター等）とも連携を図りながら児童が不登校状態とならないように取り組みを進めてきた。各学級においては、学級目標を設定し、定期的に振り返る活動を取り入れ、常に目標を意識させながら安心して学校生活を送れるようにしている。また、係や当番活動、委員会活動、学校行事等で児童が活躍できる場面を設定したり、友だちのいいところや頑張っていたところを発表したりして、お互いの自己肯定感を高め、安心できる教室づくりを進めている。しかし、不登校児童数が増加傾向となるなど、その効果は十分とは言えない面がうかがえる。今後も、不登校児童やその傾向が見られる児童に対して、学校に来づらい原因の究明に努めると共に、諸機関と連携しながら対応していくことが求められる。

○令和 5 年度、校内調査において「学校は楽しいですか」の項目に対して、肯定的回答をしている児童の割合は、92, 7 % であった。肯定的に回答する割合が上がった学年もあれば下がった学年もあった。また、高学年になると、肯定的な回答の割合が低くなる傾向がうかがえる。年度当初と比べ、教職員から見て児童が「できた」「わかった」「人の役に立った」と思わせることのできる場面は増やすことはできている。子ども同士、認め合いながら楽しく活動を行うような場面も「長縄大会」等を通じて作り出している。普段から児童のよいところを見つけて、声をかけたり認めたりするなどし、児童一人一人の自己肯定感を高められるような取り組みを継続して行うとともに、学校生活全般を通して「できた」「役に立った」と実感できるよう取り組みを工夫していく必要がある。

○令和 5 年 1 2 月に実施した児童アンケートの結果から、「毎日朝食を食べていますかの肯定的回答は 96, 17%、「11 時まで（低学年は 10 時まで）に寝ている」と答えた児童は、50, 84%。就寝時間については課題がみられる。児童や保護者の睡眠に対する意識が薄れないように、児童への指導や保護者への啓発を継続して行っていく必要がある。

○令和5年12月に実施した校内児童アンケートでは、「運動場で遊んでよい時間は、運動場でよく遊んでいますか」の項目で 60, 65%の児童が肯定的に回答しており、目標である 60%を達成することができた。各学年で児童の発達段階に応じた指導を工夫したり、出前授業を実施し体を動かす楽しさを児童がより体感する機会を増やしたりしてきた。また、「鉄棒カード」「なわとびカード」「かけ足カード」などを活用したり、大縄記録会やかけ足週間など学校全体で体を動かす取り組みを実施したりした。各学級では「みんなあそび」の時間を設定し学級の友達とのびのび活動することで、体を動かすことの楽しさを感じる機会を設けてきた。今後も、運動が苦手な児童に対して、体を動かすことが「楽しい」「心地よい」と実感できる取り組みをさらに工夫しながら取り組みを続けていくことが求められる。

○児童アンケート「1人1台パソコンを、ほぼ毎日使っている」の項目について肯定的に回答する児童の割合は、72. 37%であった。日常的には各学年の実態に応じて、様々なアプリケーションを活用した学習を実践してきている。また、「心の天気」も毎日入力できるようになってきている学年が多い。引き続き、「心の天気」の習慣化を進めるとともに各種アプリケーションは、ICT 支援員の活用や校内での活用事例の共有を進めることで指導方法を模索していく。また、児童に対して I C T 機器の適切な使い方について指導を続けていく必要がある。

○教職員の長時間勤務に関する「基準1」を満たす教員の割合は、令和4年度の6月は 48, 9%となっていた。令和6年2月には 51, 02%となり、徐々に割合は増えている。ワークライフバランスを意識し、業務の効率化や役割分担など、創意工夫しながら時間外勤務時間の短縮に努めていく。

○保護者アンケートにおいて、90%以上が「学校は家庭と協力して子どもの教育に当たっている」と肯定的に答えている。日常的な児童の様子や、学校行事の様子を保護者が知ることに「学校ホームページ」や「各種お知らせ」が十分役立っていると考えられる。日々の担任と保護者とのコミュニケーションも概ね良好であると思われる。引き続き、保護者との信頼関係の構築に努め、学校の教育活動に理解が得られるように適切な情報発信とコミュニケーションを行うように努める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校の児童生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和4年度当初よりも5%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より1ポイント減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の校内児童アンケートの「日々の授業や学校生活の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、令和4年度当初よりも5%増加させる。
- ・ノーカラーデーについて、週1回以上設定し、その日は定時閉校とする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合が、令和4年度よりも10%増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、84パーセント以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、95パーセント以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35パーセント以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66パーセント以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「学校のある日は、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を70パーセント以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)
- ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限における基準 I を満たす教職員の割合を 56%以上にする。(昨年度 51%)

※基準 I :一か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えない、かつ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えない

大阪市立南大江小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、84パーセント以上にする。 ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、95パーセント以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校全体（児童会を中心として）でいさつが飛び交う雰囲気作りをする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度末の校内児童アンケートの「相手に伝わるようにあいさつができるですか。」の項目について「そう思う」と答える児童の割合を、年度当初より増加させる。 	
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「人の役に立った」と実感できる活動や場面を設定し、指導・支援を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度末の校内児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「思わない」と答える児童の割合を、5 %以下にする。 (前年度 5. 38 %) 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立南大江小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35パーセント以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66パーセント以上にする。 ・年度末の校内調査における、「学校のある日は、同じくらいの時刻に起きてますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を70パーセント以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 授業の中でペア・グループ・全体などの交流活動を通して、自分の考えを友だちに伝える場を設定し、子どもの知的好奇心を高める発問の工夫をする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度末の校内調査の「自分の考えを友だちに伝えることができましたか。また、友だちと意見を交流することができましたか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 8 8 %以上にする。 	
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】 体育科の授業で体を動かすことの楽しさをより実感できるよう指導内容を工夫する。また、休み時間運動場や講堂などで遊べるときは、積極的に体を動かすようにする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度末の校内調査の「運動場や講堂などで遊んでよい時間は、よく遊んでいますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 6 5 %以上にする。 	
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】 健康的な生活習慣を身に付けるための取り組み(「保健だより」や「給食だより」などで、月 1 回以上発信)を充実させる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」や「給食だより」などで、月 1 回以上発信し、児童の健康に対する意識を高める。 ・令和 6 年度末の校内調査の「学校のある日は、同じくらいの時刻に起きています 	

か」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立南大江小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p>・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限における基準 I を満たす教職員の割合を 56%以上にする。(昨年度 51%)</p> <p>※基準 I :一か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えない、かつ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えない</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>毎日児童が一人一台端末を使用する時間を設ける。心の天気やデジタルドリル、タイピング練習、Teams の機能などの活用をする。</p>	
<p>指標</p> <p>・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教育の質の向上を図るために学校での課題や児童の情報、指導資料などを教職員で効率的に共有するシステムを活用する。各学期 2 回程度 ICT の研修会を行う。</p>	
<p>指標</p> <p>・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する「基準 1」を満たす教員の割合を、前年度よりも増加させる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	